

# 株式会社 燦 燦 園



## 1 現在の経営状況等

### (1) 経営理念、キャッチフレーズ等

今までの農業ではなく、新しいものを取り入れながら、おもしろく、楽しい農業の見え方や考え方というものを多くの人に伝えながら、今までの農業を違う分野として創造していく。

### (2) 栽培技術の特長

いちごの高設養液栽培において、ICT活用によるハウス内環境測定を行いながら、炭酸ガスの施用やヒートポンプの活用等、最も栽培に適した環境づくりに努めている。

環境制御については、全て自動化することは可能であるが、あえてセミ自動化とすることで、自分たちの経験を生かした本当においしいいちごの栽培というものにこだわっている。

食味のいいいちごをお客様に提供できるよう、水と土にこだわりを持った栽培を実践しており、また、静電噴霧機の利用による農薬使用の削減等、環境負荷低減の取り組みも進めている。

### (3) 販売の特長

青果及び青果加工品の販売を行っており、贈答用や生食用など、品揃えが豊富である。市場との直接取引（仲卸）が中心であるが、中玉、小玉はケーキ用を扱う仲卸を通じて契約栽培（十数件）を行っており、様々なコラボ商品が作られている。また、県内外で事業展開を図り、百貨店などの取引を行っており、3年程前からは海外（バンコクなど）での販売もスタートしている。

### (4) 経営組織の特長

既成の枠にとらわれず、新たなビジネスを創造していきたいという思いがある。社員の2/3が非農家出身者で、様々な職歴を持った者が在籍しており、その多様なスキルが事業展開に生かされている。株式会社ではあるが、トップダウンではなく、社員全員が意見を出し合える状況にある。

### (5) 労務管理の特長

販売・生産現場・加工の担当を配置し、責任の所在を明確にしながらい目標と課題に取り組む体制としている。新たな事業展開に備え、新規雇用も計画的に行っている。

### (6) 経営管理の特長

法人としての新たな特徴を生み出すものとして、新たな栽培方法への挑戦、6次産業化への取り組み、人材育成を重要視している。

### (7) その他、特筆すべき事項

ホームページの他、ラジオ（月数回）等を中心としたメディアを活用した情報発信を行っている。

「いち氷（※いちごのスイーツ）」の販売などの催事を年間で延べ30～50日間行っている。

## 2 法人設立までの変遷

### (1) 法人設立の動機、きっかけ

震災により甚大な被害を受け、多くのものを失った状況の中、この街をもう一度元気にしたいとの一心で燦燦園を立ち上げた。社名には「燦燦と光輝き続ける未来につなぐもの」という願いを込めた。

## 経営のプロフィール

### 経営概要

いちご150a、約80t  
（とちおとめ90%以上、紅ほっぺ、その他）

### 主な施設・機械の保有

- ・鉄骨ハウス130a
- ・環境コントロールハウス2a
- ・選果施設164.7㎡
- ・夜冷施設等

### 構成員等

構成員：3名、常時雇用：12名、パート：15名

### 法人設立年月日

平成23年11月27日

### 認定農業者認定年月日

平成24年3月27日

### 出資金又は資本金

125万円

### 販売額

13,000万円（平成27年度）

### 役員名

代表取締役：深沼 陽一  
取締役専務：丸子 幸伴  
取締役：谷川 礼

### 補助事業、制度資金活用実績

アグリビジネス経営基盤強化整備事業（県単）  
スーパーL資金

### (2) 法人化に至る経過等

祖父の代からいちご栽培というものを見て育ってきた。震災前は、直売等に取り組んでいたが、復興の過程で震災前に戻すのではなく、仲間とともに新たなチャレンジを行うため法人化の道を選択した。

### (3) 法人化後の評価（良かった点等）

法人化により社会的信用を得ることができ、法人だからこそできる催事や事業に取り組む中で、可能性の幅が広がり、更に様々な挑戦が出来るようになった。

## 3 今後、将来に向けてのビジョン等（現時点）

### (1) 将来ビジョンと経営戦略等

お客様と直接ふれ合える観光農園やショップの展開などを含め、収入を上げるためのビジネスモデルの構築を目指したい。

良い品物を作ることが大前提と考えており、あくまでも栽培を核として、高品質、高収量にこだわりたい。良い品物を作り続けられれば、周りから認められ、後からブランドがついてくると考えている。

補助金の活用や資金繰りなどを含め、計画的に事業を展開したい。

### (2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

自身や社員のレベルアップが今後とも重要と考えており、6次産業化などを中心に様々な分野での人材育成に努めている。新たな事業展開を見据え、新たな栽培方法の検討などを進めている。

（調査：亘理農業改良普及センター）

## 略図



### 株式会社 燦燦園

〒989-2201 亘理郡山元町山寺字稲生18番地  
TEL 0223-37-0659 (FAX兼用)  
URL <http://sunsunen.com/>  
E-mail [sunsunen@yahoo.co.jp](mailto:sunsunen@yahoo.co.jp)

### 視察受入条件

受入可（日時等は要相談）